

「氷の季節」

あ つじ てつ し
阿辻 哲次 京都大学教授

かき氷のおいしい季節になった。

現在使われている常用漢字の「氷」は、本来「冰」と書かれた字の俗字で、「冰」は《氷》と《水》を組み合わせた会意字である。その偏となつてゐる《氷》、すなわち二スイ偏は、水が凍ったときに表面にできる、ひきつたような形をかたどつた文字で、それが点一つに省略され、場所が少し移動した結果「氷」となつた。

現在のように高品質のアイスクリームが出回る前には、子どもが真夏にもっとも喜んで食べたものはかき氷だつた。そのかき氷とて、真夏でも簡単に氷が作られるようになった近代の産物で、以前は夏に氷を食べるなど、まず考えられなかつた。しかしずっと昔の中国では、真夏に皇帝が氷を群臣に分け与えるという、驚くべき儀式があつた。

種明かしは簡単で、冬の間小川のほとりなどにできた氷を、山奥の洞窟などに作つた氷室に貯蔵するのである。こうしておけば夏まで氷を保存できる。皇帝は夏にそれを取り寄せて家臣に配つただけなのだが、この行為を通じて、皇帝は自分が宇宙の時間を支配していることを家臣たちに見せつけた。酷暑の季節に氷が配られるのを見た家臣たちは、皇帝の絶大なる能力に心酔したはずである。

権力者とは昔から、ささいなトリックによつて、偉大な能力をもつと見せかけるものなのだった。